

小野わかば幼稚園

おのまちわかばたんけんたいの素敵な冒険

◎最終回 2月14日 「冬の自然を楽しもう～ダイナミックに雪遊び～」

報告：郡山女子大学短期大学部幼児教育学科 柴田 卓

最終回の第6回は、町内の公園で冬の自然を満喫しました。この日は天候も良く、うっすら残る白銀の世界と透き通った青い空が子どもたちを迎えてくれました。バスから降りてきた子どもたちの表情も初回とは比べものにならないほど自信に溢れ、遊びたい気持ちが抑えきれない様子。ソリやチューブ遊びの内容と注意事項を伝えると、さっそく自分のやりたい遊びが始まります。氷をゲットするのに夢中な子や雪の塊を積み重ねて塔を作る子、小枝を竿に見立てて釣りを始める子、なぜか落ち葉が溜まった側溝のお掃除を楽しんでいる女の子たち、それぞれにやりたいことを発見し、創造し、時に共同しながら集中して遊んでいる姿

は、実にみごとでした。便利で快適な生活が当たり前になった今、あえて寒い冬でも暑い夏でも外で遊ぶ意味と価値を小野町の豊かな自然や歴史から、そして子どもたちの遊ぶ姿や表情やつぶやきから学ぶことができたように思います。こうした全身で没頭しながら遊んだ経験は、子どもたちが将来大人になった時、ふと小峯遊歩道から観た絶景をまた観たくなったり思い出したりできる豊かな心の財産になってくれることでしょう。

最後にバスの運転手さんや保護者の方をはじめ、たんけんたいにご支援・ご協力いただきました皆さんに感謝申し上げます。最終回ということもあり、先生方の声で結びとさせていただきます。

◎『おのまちわかばたんけんたいの活動を通した子どもたちの成長』

報告：小野わかば幼稚園 職員一同

大人になってからも、ふと思い出す幼い頃の記憶はありませんか？草の香り、空の色、虫をつかまえたときの喜び・・・。「小野町の豊かな自然環境を子どもたちと味わいたい」この思いからスタートした「たんけんたい」の活動は、毎回ドキドキワクワクの連続でした。ぐるぐる先生と歩いた東堂山の遊歩道、くま先生とまきを集め炊いたご飯のおいしさ、どれも園生活ではできない貴重な体験でした。

「なんか、たのしい！」子どもたちの言葉にならない心の感動が一人一人をたくましくしてくれました。ばら組の皆さん、今度はどんな発見が待っているかな？

できないことがあると「先生やって」と言ってい

た子どもたちでしたが、「自分のことは自分でできる！」と意欲的に生活できるようになりました。また「ぶんの葉っぱ」を見つけたり、花の名前を調べたり、今まで何気なく遊んでいた園庭が子どもたちをわくわくさせる場所になりました。自然についての知識だけでなく、友達を思いやる気持ち、話を聞こうとする姿勢、やってみようとする心が育ったように思います。自分でやり遂げられた経験が一つ一つ積み重なり、子どもたちの大きな自信へとつながりました。

子どもたちだけでなく、私たち職員も、心に眠っていたさまざまな思いが、湧き出てくる「たんけんたい」でした。

